

ドイツ言語文化研究Ⅰ(その2)

2単位 2年(後期)

石川 榮作・教授/人間文化学科

【授業目的】ドイツの作曲家で、同時に作家であるリヒャルト・ワーグナー(1813-83)は後世の諸芸術に多大の影響を及ぼした。本授業科目はこのワーグナーの楽劇『ニーベルングの指環』四部作のうち、『ヴァルキューレ』をドイツ語の原典で講読するとともに、ビデオを使ってオペラをも鑑賞することによって、教養を高め、豊かな人間性を培うことを目的とする。

【授業概要】ドイツ・オペラの講読と鑑賞

【キーワード】ドイツ文学, ワーグナー, 楽劇, ニーベルンゲン伝説, 北欧神話

【先行科目】『ドイツの文学』(1.0)

【履修上の注意】ドイツ語のテキストを講読しながら授業を進めるので、共通教育のドイツ語入門・初級を履修していることを原則とする。

【到達目標】ドイツ語辞典を用いてワーグナーの台本を読むことができ、オペラそのものを楽しむことができることを到達目標とする。

【授業計画】

1. 楽劇『ニーベルングの指環』四部作——『ラインの黄金』、『ヴァルキューレ』、『ジークフリート』及び『神々の黄昏』——は、ワーグナーのライフワークとも言うべき作品である。2011年度後期はその二作目の作品『ヴァルキューレ』の台本を毎回少しずつじっくりと読み、同時にビデオでオペラそのものを鑑賞する。後期の授業計画は次の通りである。
2. 1) 『ヴァルキューレ』第一幕講読(5回)
3. 2) 『ヴァルキューレ』第二幕鑑賞(1回)
4. 3) 『ヴァルキューレ』第三幕講読(5回)
5. 4) 『ヴァルキューレ』全三幕を通して鑑賞(3回)
6. 5) 『ヴァルキューレ』の特質(総まとめ)

【成績評価】授業への取り組み(50%)と期末試験(またはレポート)(50%)による。

【再試験】行わない

【教科書】対訳プリント(石川訳)を配付する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218897>

【連絡先】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 毎週 金曜日15時~16時)

【備考】この授業科目は8単位まで履修することができます。(その1)と(その2)は今年度それぞれ前期と後期に開講,(その3)と(その4)は来年度にそれぞれ前期と後期に開講予定です。